

第5回 江東区長杯ヨットレース
兼第50回 東京港レガッタ (ディンギークラス)
兼マンスリーレガッタ (月例レース)

帆走指示書 SAILING INSTRUCTIONS

帆走指示書(SI)の規則中の[NP]の表記は、艇は、他艇の規則違反に対し抗議できないことを意味する。これは RRS 60.1 を変更している。

帆走指示書(SI)の規則中の[SP]の表記は、規則違反に対する標準的なペナルティーが、レース委員会またはテクニカル委員会によって、審問なしに課される可能性があることを意味する。これは RRS A5 を変更している。

1. 規則

- 1.1. 本大会には、2025-2028 セーリング競技規則に定義された規則が適用される。
- 1.2. 1.2.SI は NOR よりも優先する。これは規則 63.5(c)を変更している。

2. 帆走指示書の変更

- 2.1. 帆走指示書(レース日程も含む)の変更は、それが発効する当日の 9:00 までに公式掲示板に掲示する。

3. 選手とのコミュニケーション

- 3.1 公式掲示板は新艇庫前に設置する。(ホワイトボード)
- 3.2 [DP] 最初の予告信号からその日の最終レースまで、緊急の場合を除き、艇は、音声やデータを送信してはならず、かつ、すべての艇が利用できない音声やデータ通信を受信してはならない。またこの制限は、携帯電話にも適用される。

4. 行動規範

- 4.1 [DP] 競技者および支援者は、レース委員会からの合理的な要求に応じなければならない。
- 4.2 [DP] 競技者および支援者は、主催団体によって提供された、装備の取扱いを、その使用に関する指示に従い、その機能を妨げることなく、実行しなければならない。

5. 陸上で発せられる信号

- 5.1. 陸上で発する信号は、新艇庫前に設置されたポールに掲揚する。
- 5.2. [DP] 音響1声とともに掲揚される D 旗は、艇は、この信号が発せられるまで岸から離れないようにしなければならないことを意味する。
- 5.3. 予告信号は、予定された時刻より前、または D 旗が掲揚された後30分以前には発せられない。
- 5.4. D旗がクラス旗の上に掲揚された場合、そのクラスのみ適用する。

6. レース日程

6.1. レース日程

種 目	最初のクラスの予告信号予定時刻	レース数
ダブルハンドクラス級	9:55	4
シングルハンドクラス級	引き続き	4
OP級クラス	〃	4
ハンザ(303)クラス	〃	4

※引き続きのレースのスタート順番は掲示した順番と異なることがある。

- 6.2. 次のレースが始まることを艇に注意を喚起するために、予告信号を掲揚する最低5分以前に、音響1声とともにオレンジ旗を掲揚する。
- 6.3. 14:30以降のスタート予告信号は発しない。

7. クラス旗

種 目	ク ラ ス 旗
ダブルハンドクラス	420 級旗
シングルハンドクラス	ILCA6級旗(緑地)
OP級A・B クラス	OP 旗(黒)
ハンザ(303)クラス	ハンザクラス旗

8. レースエリア

「添付図 A」にレース・エリアのおおよその位置を示す。

9. コース

- 9.1. 「添付図 B」の見取り図、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 9.2. 予告信号以前に、レース委員会信号艇に最初のレグのおおよそのコンパス方位」を掲示する。

10. マーク

10.1. マークの色と形状

海面	マーク	1,2,3s3p	1b	新しいマーク	スタートピン・	フィニッシュピン
葛西沖訓練水域	色と形状	黄色の円筒形	黄色の円筒形 (トレーニングブイ)	黄色の三角推	橙色の円筒形 (サンファン)	円錐形 (黄緑か黄色)

11. 障害物

三枚洲との境界線を意味する鉄標は障害物として指定される。

12. スタート

- 12.1. レースは、RRS 26 を用いて、予告信号をスタート信号の5分前とし、スタートさせる。
- 12.2. スタート・ラインは、スターボードの端にあるオレンジ色旗を掲揚しているポールと、ポートの端にある橙色の円筒形ブイのコース側の間とする。
- 12.3. スタート信号後4分より後にスタートする艇は、審問なしに「スタートしなかった(DNS)」と記録される。これは RRS A 5 を変更している。
- 12.4. 予告信号が発せられていないクラスの艇は、コースサイドの外側に出るとともにスタート・ラインから離れ、予告信号が発せられたクラスの艇を避けなければならない。

13. コースの次のレグの変更

コースの次のレグを変更するために、レース委員会は、新しいマークを設置し(またはフィニッシュ・ラインを移動し)、実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

14. フィニッシュ

- 14.1. フィニッシュ・ラインは、レース委員会艇の青緑旗を掲揚しているポールと、黄緑か黄色の円錐形ブイのコース側の間とする。

15. ペナルティー方式

- 15.1. ハンザクラスについては、RRS 44.1 を変更し、『2 回転ペナルティー』を『1 回転ペナルティー』に置き換える。

16. タイムリミットとターゲットタイム

16.1. タイム・リミット、フィニッシュ・ウィンドウ及びターゲット・タイムは、次の通りとする。

種 目	タイムリミット	マーク1のタイムリミット	フィニッシュウィンドウ	ターゲットタイム
ダブルハンドクラス、	60分	20分	10分	35分
シングルハンドクラス	60分	20分	10分	40分
ハンザ303クラス	60分	20分	10分	25分
OP級 Aクラス	60分	20分	10分	40分
OP級 Bクラス	50分	20分	10分	25分

16.2. マーク1のタイム・リミット内に1艇も最初のマークを通過しなかった場合、レースは中止される。

16.3. ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済要求の根拠とはならない。これは RRS 61.4(b)(1)を変更している。

17. 審問要求

17.1. それぞれのクラスに対して、抗議締切時刻は、そのクラスの最終レースに最終艇がフィニッシュした後、またはレース委員会が、本日これ以上レースは行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から60分とする。時刻は公式掲示板に掲示される。

17.2. 審問要求書の様式は、新艇庫 1Fにあるレース・オフィスで入手できる

17.3. 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に、審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後30分以内に通告が掲示される。審問は、新艇庫 2Fにあるプロテスト・ルームにて掲示された時刻に始められる。

18. 得点

18.1. 本競技会が成立するためには1レースを完了することを必要とする。天候その他の理由により、本競技会が成立しない場合でも再レースは行わない。

18.2. シリーズの得点は、次の通りとする。

・艇のシリーズの得点は、実施された全てのレース得点の合計とする。付則A2を変更している。

18.3. 参加艇数とは、当該クラスに参加が認められた艇の数とする。

18.4. ダブルハンドクラス・シングルハンドクラスに複数艇種が参加した場合は、ヤードスティックにより修正した時間で順位を算定する。

19. 安全規定

19.1. [DP]チェックインとチェックアウトはレースオフィスに準備した用紙に記述すること。

19.2. レース委員会は、危険な状態にあると判断した艇に対しタイヤの勧告及び強制救助を行うことができる。これは艇による救済要求の根拠にはならない。この項は、規則 61.4(b)(1)を変更している。

19.3. [DP] レースからリタイヤする艇は、最初の妥当な機会にレース委員会に伝えなければならない。艇は、陸上に戻ったら直ちに、レースオフィスで入手可能なリタイヤ申告書に記入しなければならない。

19.4. 参加する選手は、離岸から着岸まで有効な浮力体を持ったライフジャケットを着用しなければならない。

19.5. 艇は自らの安全のためにマスト・トップに浮力体を取り付けることができる。

20. 装備の交換及び計測のチェック

20.1. 損傷又は紛失した装備の修理又は交換は、レース委員会の承認なしには許可されない。

20.2. 装備と艇または装備は、クラス規則、レース公示および帆走指示書に適合しているか、いつでも検査されることがある。

21. 運営艇

21.1. 運営艇の標識は、下記のとおりとする。

運営艇名	表示	旗色
レース委員会艇	RC (緑or青色)	白色

プロテスト委員会艇	JURY (白色)	赤色
セーフティー	RESCUE (赤色)	白色

22. [NP][DP]支援者艇

- 22.1. 支援者艇は、レース公示に従い競技会参加申込時に所定の様式により、レース委員会からその使用許可を受けなければならない。
- 22.2. 使用許可を受けた支援者艇には、無線機もしくは携帯電話機を搭載し、参加受付時に貸与されたピンク色旗を掲揚しなければならない。
- 22.3. 支援者艇は、最初にスタートするクラスの予告信号の時刻からすべての艇がフィニッシュするまでの間、レース・エリアに入ってはならない。
- 22.4. 運営艇が数字旗8を掲揚した場合、支援者艇は危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない

23. ごみの処分

艇および支援艇は、水中にごみ等を捨ててはならない。支援者艇、運営艇に預けてよい。

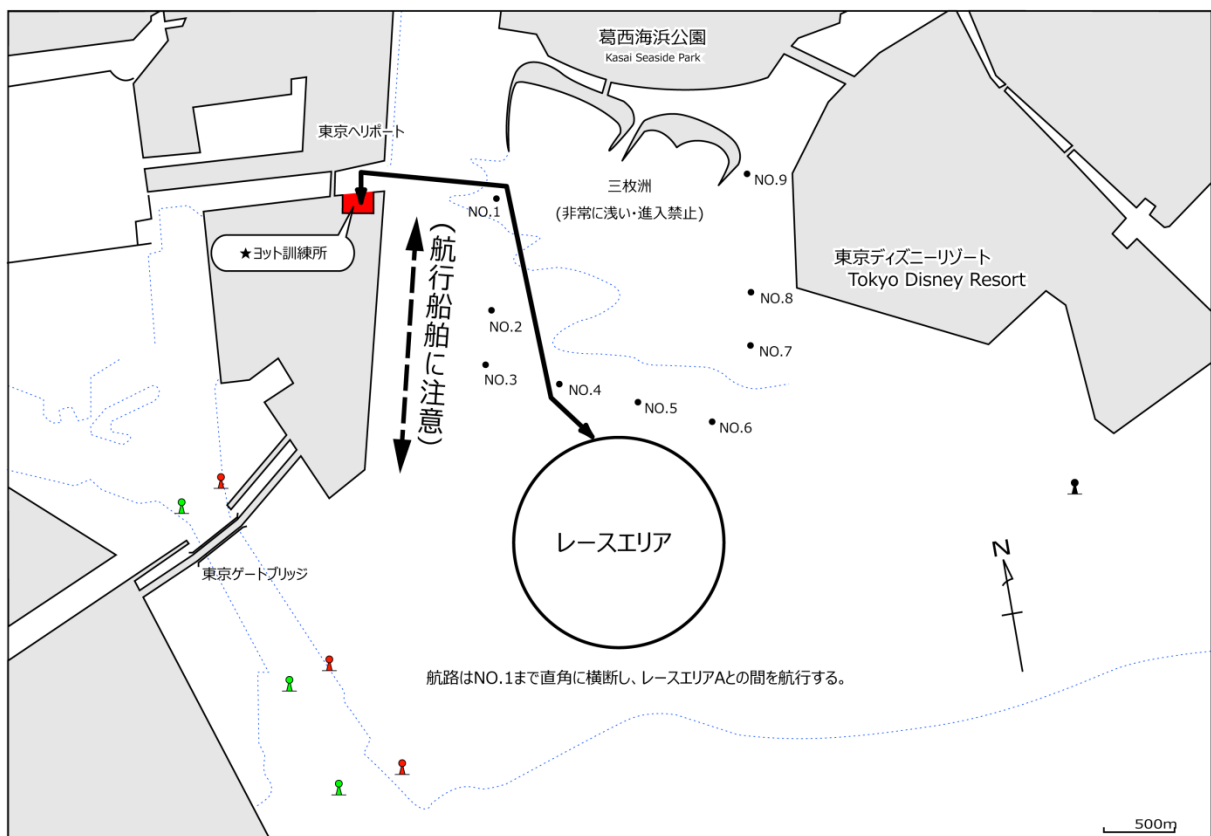
24. リスク・ステートメント

RRS 3 には『レースに参加するか、またはレースを続けるかについての艇の決定の責任は、その艇のみにある。』とある。大会に参加することによって、それぞれの競技者は、セーリングには内在するリスクがあり、潜在的な危険を伴う行動であることに合意し、認めることになる。これらのリスクには、強風、荒れた海、天候の突然の変化、機器の故障、艇の操船の誤り、他艇の未熟な操船術、バランスの悪い不安定な足場、疲労による傷害のリスクの増大などがある。セーリング・スポーツに固有なのは、溺死、心的外傷、低体温症、その他の原因による一生消えない重篤な傷害、死亡のリスクである。

25. 規則違反によって生じた損害の補償

- 25.1. 主催団体は、規則等に違反した艇の乗員に対して、その規則違反によって生じたすべての損害の補償を命じることができる。

添付図 A. 「レース・エリア」



添付図 B

